

勉誠出版

中古文学会 会員様対象 特別割引のご案内

2022・2021年刊行書籍 20%OFF

創業～2020年刊行書籍 30%OFF

謹啓

日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。

通常の2割引セールに加え、「創業55周年謝恩セール」といたしまして、創業から2020年までに刊行した書籍につきましては3割引とさせていただきます(詳細は次頁をご参照ください)。

この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード:2021・2022年刊行書籍	ed942b7b1e95ab (期限:～2022年12月26日)
割引クーポンコード:創業～2020年刊行書籍	benseisale2022 (期限:～2022年12月26日)

上記の英数字を、必ずご入力ください！

※ 未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・2種のセールは、別々にご注文・ご精算くださいますようお願い致します(システムの都合上、一括でのご精算ができません)。一括でのご請求をご希望の場合は、メールにてご注文くださいませ。
- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費／私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・3000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス(※海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
中古文学会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

勉誠出版 創業55周年 謝恩SALE

対象タイトルが、
30%
OFF!!!!

お買い上げ10万円毎に
割引率UP!!
10万～19万9999円⇒2%割引
20万～29万9999円⇒4%割引!!
30万～⇒6%割引!!
※詳細は特設サイトをご確認ください

出品タイトル
約**2,200点!!**
※創業から2020年刊までのタイトル全点
(増刷タイトルなど一部を除く)

在庫僅少本
多数出品!!!!

CAUTION!!! 当セールは弊社への直接注文に限ります。書店では割引販売は行っておりません。
必ず弊社へ直接ご注文くださいますよう、よろしくお願いいたします。

謝恩セール特設サイト

※インターネットをご利用にならない方は、
当社まで直接お問い合わせください。

bensei.jp/sale2022



謝恩セールクーポンコード

benseisale2022

勉誠出版WEBサイトでお買い上げの際にご入力ください。特価割引が適用されます。クーポンは、電話・FAX・メール・郵送でご注文の際もご使用いただけます。10万円以上のご注文で、購入金額に応じた追加割引特典をご希望のお客様はご注文方法が異なりますので、特設サイトの説明をご確認ください。

ご注文方法

特設サイトから
書籍リストを入手

※印刷したリストのご送付も可能です。
ご入用のかたはご連絡ください。

勉誠出版
WEBサイトで
書籍を選択

※電話・FAX・メール・郵送
でのご注文も承ります。

購入手続きの際に、
クーポンコードを入力

※ウェブサイト注文以外も
クーポンをご利用いただけます。
※セール対象品以外は
割引適用外になります。

期間限定

2022年9月27日～12月26日

出品ジャンル〈全20分野〉

◎日本語・国語◎外国語◎日本古典文学◎日本近現代文学◎東洋文学
◎欧米文学◎考古学◎日本史(前近代史)◎日本史(近現代史)◎東洋史
◎世界史◎哲学・宗教・民俗◎社会科学◎自然科学◎美術・音楽・芸能
◎図書館情報学◎事典・辞書◎文芸◎人文一般◎入門書

上記特設サイトで、各分野リスト・全体リストPDFをダウンロードいただけます。

本セールは、メールマガジンご購読のWEB会員様、研究者のみなさまを対象にご案内しておりますが、お知り合いの研究者の方にぜひご紹介ください!

◎当セールは弊社への直接注文に限ります。書店では割引販売は行っておりません◎公費でのご注文も承ります◎ご所属の図書館様へのお申込みをご希望の場合は、当ご案内を図書館のご担当様へお渡しのうえ、弊社へ直接ご発注いただきますよう、お伝えください◎割引クーポンをご利用の場合、**ポイントの付与はありません**。すでに取得されているポイントはご購入の際にご使用いただけます◎刊行年の古い書籍や在庫僅少本については、カバーや表紙の汚損など状態が必ずしも良くないものや、外函が無いものなどがある場合がございます。あらかじめご了承ください。

【勉誠出版】研究書 近刊・新刊書籍リスト(2022・2021刊行分)

書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価	割引価格	注文数
伝達と変容の日本建築史―伝わるかたち／伝えるわざ	野村俊一 編	2022/07	35001-9	3,850	2,816	
上杉本洛中洛外図屏風の研究―桑実寺縁起絵巻と共に	小谷量子 著	2022/09	32020-3	9,900	2,816	
中世東国日蓮宗寺院の地域的展開	佐藤博信 著	2022/05	32016-6	13,200	3,344	
中世神道入門―カミとホトケの織りなす世界	伊藤聡・門屋温 監修／新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也 編	2022/04	31006-8	4,180	10,560	
一刀斎先生剣法書訳注―剣豪伊藤一刀斎の教え	竹田隆一・長尾直茂 編	2022/03	37002-4	1,980	1,232	
ことば・ほとけ・図像の交響―法会・儀礼とアーカイヴ	近本謙介 編	2022/03	31009-9	13,200	3,344	
宗教遺産テキスト学の創成	木俣元一・近本謙介 編	2022/03	31008-2	16,500	2,112	
宋版一切経（福州版）調査提要―本源寺蔵の調査を通して	福州版一切経調査研究会 編	2022/03	31010-5	7,150	14,080	
奈良絵本『太平記』の世界―永青文庫所蔵『絵入太平記』全挿絵影印ならびに研究	中根千絵・森田貴之 編	2022/03	39007-7	55,000	7,040	
中国道教美術史 漢魏晋南北朝篇	李松 著／土屋昌明・齋藤龍一 監訳／廣瀬直記・熊坂聡美・因幡聡美 訳	2022/02	37001-7	38,500	10,560	
古文書研究 第92号	日本古文書学会 編	2022/01	32402-7	4,180	1,408	
知っておきたい和食の文化	佐藤洋一郎 編	2022/01	33001-1	3,080	3,344	
コレクションとアーカイヴ―東アジア美術研究の可能性	板倉聖哲・塚本鷹充 編	2022/01	37000-0	10,450	8,360	
合戦図 描かれた〈武〉	中根千絵・薄田大輔 編	2021/12	32013-5	17,600	7,920	
聖徳太子信仰とは何か	榊原史子 著	2021/12	31007-5	4,180	3,344	
玄奘三蔵―新たなる玄奘像をもとめて	佐久間秀範・近本謙介・本井牧子 編	2021/12	31005-1	13,200	3,344	
室町文化の座標軸―遣明船時代の列島と文事	芳澤元 編	2021/10	32011-1	10,780	2,640	
首里城を解く―文化財継承のための礎を築く	高良倉吉 監修／島村幸一 編	2021/09	32001-2	4,180	1,760	
怪異学講義―王権・信仰・いとなみ	東アジア怪異学会 編	2021/09	32007-4	3,520	1,408	
戦国時代劇メディアの見方・つくり方―戦国イメージと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2021/09	32006-7	3,520	9,680	
中世武家領主の世界―現地と文献・モノから探る	田中大喜 編	2021/08	32003-6	4,180	2,816	
日本古代の仏教者と山林修行	小林崇仁 著	2021/08	31003-7	13,200	1,584	
古建築調査ハンドブック	山岸常人・岸泰子・登谷伸宏 著	2021/08	35000-2	1,540	9,680	
古文書研究 第91号	日本古文書学会 編	2021/07	32401-0	4,180	5,280	
もう一度読みたい日本の古典文学	三宅晶子 編	2021/07	39001-5	2,640	15,840	
書物・印刷・本屋―日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫 編	2021/06	30002-1	17,600	2,640	
創られた由緒―近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	2021/06	31002-0	8,800	10,560	
中世寺院の仏法と社会	永村真 編	2021/06	31001-3	13,200	3,168	
改訂新版 中国学入門（オンデマンド版）―中国古典を学ぶための	二松學舎大学文学部中国文学科 編	2021/04	80056-9	1,760	1,760	
増補改訂新版 日本中世史入門―論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2021/02	22280-4	4,180	10,560	
中世の博多とアジア	伊藤幸司 著	2021/02	22300-9	10,450	9,680	
戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/02	22301-6	9,900	7,920	
鷹狩の日本史	福田千鶴・武井弘一 編	2021/02	22297-2	4,180	7,920	
大嘗祭―隠された古層	工藤隆・岡部隆志・遠藤耕太郎 編	2021/01	21057-3	4,180	13,200	
古文書への招待	日本古文書学会 編	2021/01	22277-4	3,300	0	
杜甫研究年報 第五号 〈杜甫研究年報〉	日本杜甫学会 編	2022/04	39445-7	2,200	2,464	
入門 中国学の方法	二松學舎大学文学部中国文学科 編	2022/04	30005-2	1,760	2,816	
訳注 琉球文学 『佐銘川大ぬし由來記』『周蘭両姓記事』『思出草』『浮縄雅文集』『雨夜物語』『永峰和文』	島村幸一・小此木敏明・屋良健一郎 著	2022/03	39009-1	12,100	2,816	
本朝文粹抄 七	後藤昭雄 著	2022/02	39511-9	3,520	2,816	
書物学 第19巻 紙のレンズから見た古典籍 〈書物学〉	編集部 編	2022/02	30719-8	1,980	2,816	
飛鳥井家歌学の形成と展開	日高愛子 著	2022/01	39006-0	12,100	2,640	
中国史書入門 現代語訳 北齊書	氣賀澤保規 監修	2021/12	29612-6	6,600	2,464	
慶應義塾図書館蔵 論語疏巻六 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵 論語義疏 影印と解題研究	慶應義塾大学論語疏研究会 編	2021/11	31004-4	19,800	2,816	
水門 第三十号―言葉と歴史 〈水門〉	水門の会 編	2021/11	32461-4	3,300	2,464	
説話の東アジア―『今昔物語集』を中心に	高陽 著	2021/09	39004-6	13,200	10,560	
谷崎潤一郎 美と生命の間	柴田勝二 著	2021/07	39003-9	3,960	3,168	
杜甫研究年報 第四号 〈杜甫研究年報〉	日本杜甫学会 編	2021/04	39444-0	2,200	1,760	

【勉誠出版】研究書 近刊・新刊書籍リスト(2022・2021刊行分)

物語文学の諸相と展開	中野幸一 著	2021/03	39000-8	13,200	10,560	
韓国・朝鮮説話学の形成と展開	金廣植 著	2021/02	29201-2	12,100	9,680	
真田幸弘点取百韻 翻刻と解題	玉城司・小幡伍 編著	2021/02	29204-3	9,900	7,920	
観相の文化史	相田満 著	2021/02	29203-6	9,900	7,920	
和漢朗詠集とその享受 増訂版	三木雅博 著	2021/01	29202-9	16,500	13,200	
アジア遊学						
275 「唐物」とは何か―舶載品をめぐる文化形成と交流	河添房江・皆川雅樹 編	2022/10	32520-8	3,080	2,464	
274 呉越国 10世紀東アジアに華開いた文化国家	瀧朝子 編	2022/10	32521-5	3,520	2,816	
273 日本の中世貨幣と東アジア	中島圭一 編	2022/09	32519-2	3,520	2,816	
272 対馬の渡来版経―護り伝える東アジアの至宝	横内裕人 編	2022/08	32518-5	3,520	2,816	
271 儒教思想と絵画―東アジアの勸戒画	水野裕史 編	2022/06	32517-8	3,520	2,816	
265 宗教芸能としての能楽	高橋悠介 編	2022/01	32511-6	3,300	2,640	
263 室町前期の文化・社会・宗教―『三国伝記』を読みとく	小助川元太・橋本正俊 編	2021/11	32509-3	3,080	2,464	
262 資料論がひらく軍記・合戦図の世界―理文融合型資料論と史	井上泰至 編	2021/10	32508-6	3,520	2,816	
261 古典は遺産か? 日本文学におけるテキスト遺産の利用と再	Edoardo GERLINI・河野貴美子 編	2021/10	32507-9	3,080	2,464	

横内裕人 [編]

対馬の渡来版経

護り伝える東アジアの至宝

東アジア文化交流の至宝の全貌を明らかにする

国境の島、対馬。

朝鮮半島まで約五十キロの位置にあるこの島は、古来、日本にとって外来文化受容の最前線基地として重要な役割を担ってきた。

島内には、朝鮮半島由来の文物が数多く伝来し、その交流の歴史を物語る遺品として大切に護られている。

そのひとつが朝鮮半島から伝わった版経と呼ばれる印刷された仏教經典の数々であり、世界的にみても現存まれな遺品が数多く残されている。十年に及ぶ総合調査により見えてきた

対馬伝来の版経に関する新知見を多数の図版とともに余すところなく提示。東アジア文化交流の至宝である対馬の版経を、未来に伝える一里塚となる画期的な書。

掲載図版
100点超！



アジア遊学
272

目次

カラー口絵
序言：横内裕人
総論 対馬に残る渡来版経の世界：横内裕人

1 対馬渡来版経のすべて

長松寺所蔵 高麗版初雕本『大般若経』…横内裕人
金剛院所蔵 高麗版再雕本『大般若経』…馬場久幸
多頭魂神社所蔵 高麗版再雕本『大般若経』…馬場久幸
西福寺所蔵 元版普賢寺蔵『大般若経』…横内裕人
妙光寺所蔵 元版普賢寺蔵『大般若経』…瓜生翠
高野山金剛峯寺所蔵 高麗版大蔵経…須田牧子
武田科学振興財団杏雨書屋所蔵 磧砂版大蔵経…須田牧子
東泉寺所蔵 元官版『大方広華嚴経』…梶浦晋
【コラム】版経の調査方法：松浦晃佑
【コラム】「高麗版」のふるさと：馬場久幸

2 対馬渡来版経を掘り下げる

対馬宗氏の經典施入とその政治的意義…荒木和憲
対馬藩と寺社の宝物―經典を中心に…一瀬智
高麗版再雕本大蔵経の料紙について…富田正弘
高麗版再雕本大蔵経に見える墨書の検討…馬場久幸
多頭魂神社所蔵高麗版大蔵経の渡来年代について…須田牧子
萬松院所蔵の朝鮮版經典…瓜生翠
朝鮮・世祖による仏典整理・編纂・刊行事業とその顛末
…仏典諺解文獻の言語への検討を通して…杉山豊
妙光寺・普賢寺蔵大般若経の経箱…松浦晃佑
対馬版経の調査・研究と今後の保管・管理
…平成の対馬版経調査に参加して…山口華代
【コラム】長崎県対馬歴史研究センターの開所と今後の役割…丸山大輝
【博物館紹介】対馬の新たな拠点、対馬博物館…成富なつみ

定価 3,520 円(税込)
本体 3,200 円

A5判・並製カバー装・296頁
ISBN978-4-585-32518-5 C1320
2022年8月刊行

書 名	部 数
対馬の渡来版経 護り伝える東アジアの至宝 【アジア遊学272】 横内裕人 [編]	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

定価 3,520 円(税込)・本体 3,200 円
A5判並製カバー装・296頁
ISBN978-4-585-32518-5 C1320
2022 年 8 月刊行

河添房江・皆川雅樹 [編]

唐物とは何か

舶載品をめぐる文化形成と交流

「唐物」の文化史的意義を問い直す

奈良から平安、中世や近世にかけて受容されてきた舶載品である「唐物」。その研究は歴史学、美術史、日本文学など、これまで様々な分野で進展してきた。しかし、その内容は多種多様にわたり、共通の理解が異なる分野で必ずしも共有されてきたとはいえない。そこで二〇一一年に刊行された『唐物と東アジア（アジア遊学）』の第二弾として、対象地域・時代を広げ、改めて「唐物」の概念の成立や展開、その歴史的・文化史的な意義を多角的な視点から再検証する。唐物の受容や海外交流に関する研究の現状と課題を提示し、唐物研究の新たなステージを拓く画期的な成果。



アジア遊学
275

定価 3,080 円(本体 2,800 円)
A5判・並製カバー装・296頁
ISBN978-4-585-32520-8 C1321
2022年10月刊行

目次

I 唐物の成立と展開

- 「序言」唐物の文化史的意義を問い直す…河添房江
- 「総論」人・モノ・情報の移動：交流からみた「日本文化」…皆川雅樹
- 「唐物」と国風文化をめぐる研究の狭間から考える…皆川雅樹
- 「唐物」の成立…河内春人
- 考古学からみた古代から中世の唐物交易の変遷…菅波正人
- 鎌倉時代の唐物と文化伝播…大塚紀弘
- 「コラム」鎌倉の「唐物」…金沢北条氏ゆかりの称名寺伝来品…梅沢 恵
- 室町時代政治史からみた唐物…松永和浩
- 室町仏教と唐物…川本慎自
- 「コラム」能・狂言と唐物…日明貿易と応永の外寇のはざま…関屋俊彦
- 「コラム」唐物としての銭貨…川戸貴史
- 「コラム」青花の受容「染付」の展開…日本中近世陶磁史からみた唐物…高島裕之
- 海渡る「唐物」…九〇十三世紀中国より見た…山崎寛士
- 高麗・朝鮮王朝との交流と唐物…関 周一
- 「コラム」北方・南方文化と唐物…養島栄紀
- 「コラム」ふたつの「うしろ」…ポスト・モンゴルの海域交流が創った「唐物」…向 正樹
- 「コラム」世界のなかの「唐物」現象…「唐物」価値の源泉を求めて…塚本磨充

II 日本文化のなかの唐物

- 金属工芸からみた「唐物」…久保智康
- 平安漢文学からみた唐物…文具を中心として…河野貴美子
- 「コラム」薫物と唐物…田中圭子
- 「コラム」日本文学と鸚鵡…歌論用語「鸚鵡返し」をめぐる…小山順子
- 泉涌寺における唐物の受容…西谷 功
- 「唐物」としての「方丈草庵」…維摩詰・王玄策から鴨長明へ…荒木 浩
- 唐物としての書と書物…無学祖元を例に…堀川貴司
- 二つの牧谿伝承作…円覚寺蔵「白衣観音図」と建長寺蔵「猿猴図」をめぐる…高橋真作
- 「コラム」花道史における中国瓶花と唐物…井上 治
- 「コラム」近世の文人と唐物…高松亮太
- 「コラム」近代文化と「唐物」…山本真紗子

編者プロフィール

河添房江（かわぞえ ふさえ）
東京学芸大学名誉教授。『源氏物語』を中心に平安文学を専攻。唐物を媒介に、古典文学と東アジアの関係も研究している。主な著書に『源氏物語越境論 唐物表象と物語享受の諸相』（岩波書店、二〇一八年）などがある。

皆川雅樹（みながわ まさき）
産業能率大学経営学部准教授。専門は日本古代史・日本列島を中心とした古代東アジアにおけるモノの交流史などを研究している。主な著書に『日本古代王権と唐物交易』（吉川弘文館、二〇一四年）などがある。

書 名	部 数
「唐物」とは何か 【アジア遊学 275】 舶載品をめぐる文化形成と交流 河添房江・皆川雅樹 [編]	部
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

定価 3,080 円(本体 2,800 円)
A5判・並製カバー装・296頁
ISBN978-4-585-32520-8 C1321
2022年 10 月刊行

瀧朝子 [編]

呉越国

しえつこく

アジア遊学 274

10世紀東アジアに華開いた文化国家

唐の滅亡から北宋の成立に至るまでの期間、

中国大陸は諸国が並び立つ群雄割拠の時代を迎えた——五代十国時代である。

なかでも呉越国は十国の一つであるが、青磁を代表する越州窯を領土内に持ち、

また、江南における釈迦信仰の歴史を受けて文化を豊かに高めた。

さらに、海港都市を有して海外と積極的な交流を図っており、

国王銭氏一族を中心として展開されたその文化や外交が東アジアに与えた影響は非常に大きい。

本書では、新たな歴史的文物の発見が目覚ましい呉越国に関する最新の知見を盛り込み、

王族墓からの出土品や雷峰塔など、その真髄ともいえる文化の一端を示し、

また、東アジア圏における呉越国の在り方や日本、遼（契丹）、

高麗などを含めた周囲の国々との関係について解説。

東洋美術及び東洋史、文学など諸分野からの多角的な視点より、

東アジアにおける呉越国の与えた影響を総合的に捉える初めての書。

目次

カラー口絵

「はじめに」呉越国の文化と美術……瀧朝子

杭州の呉越国関連地図

第一部 呉越国と東アジア諸国

東アジアのなかの呉越国……山崎寛士

藤原実頼・師輔の呉越王への書……後藤昭雄

呉越・宋・高麗への返書・返牒と自讃

——大江山伝来の外交文書と対外意識……吉原浩人

呉越と平安朝の漢学……後藤昭雄

【コラム】呉越研究と金石文……森田憲司

江浙地方と日本におけるボタン栽培の始まり

——呉越国からの伝来の可能性……久保輝幸

『呉越銭氏』の現代的意義について……池澤滋子

第二部 呉越国王銭氏の信仰

呉越国の道教信仰

——投龍簡と聖地ネットワーク……酒井規史

呉越国銀簡・金龍考釈……王宣懿（瀧朝子訳）

呉越国と韓半島における仏教文化交流新論……周見美氏（李鉉淑訳）

呉越における菩薩戒

——銭弘俶の受戒を中心に……河上麻由子

【コラム】初唐道宣の『集神州三宝感通録』と呉越……肥田路美

第三部

呉越国の考古・美術と交流関係

五代・呉越国時代の銅鏡

——五代の銅鏡に関する問題とともに……王牧（瀧朝子訳）

呉越国をめぐる南北文化交流……向井佑介

天台山石橋五百羅漢と贊寧

——中国における羅漢信仰のひろがり……西谷功

呉越国の絵画と日本

——『応現観音図』を中心に……増隆隆介

呉越国将来『往生西方浄土応刪伝』の古代・中世における受容……崔鵬偉

あとがき……瀧朝子

編者プロフィール

瀧朝子（たき・あさこ）

大和文華館学芸部課長。専門は東洋工芸史、仏教美術史。

企画・主編した特別展と図録に『鏡像の美——鏡に刻まれた仏の世界』

（大和文華館二〇〇六年）、『呉越国——西湖に育まれた文化の精粹』

（大和文華館二〇一六年）、『建国二〇〇年 高麗——金属工芸の輝

きと信仰』（大和文華館二〇一八年）、『天之美祿 酒の美術』（大和文

華館、二〇二二年）などがある。

掲載図版
150点超！

銭弘俶八万四千塔

定価 3,520 円（税込）
本体 3,200 円A5判・並製カバー装・
カラー口絵16頁＋本文320頁
ISBN978-4-585-32521-5 C1322
2022年10月刊行

書名	部数
呉越国 10世紀東アジアに華開いた文化国家 瀧朝子 [編] 【アジア遊学274】	定価 3,520 円（税込）・本体 3,200 円 A5判並製カバー装・ カラー口絵16頁＋本文320頁 ISBN978-4-585-32521-5 C1322 2022年10月刊行
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

入門 中国学の方法

「もくじ」

文字学 ● 戸内俊介

街角の漢字の源流を辿って——「風月堂」の「風」はなぜ「風」か

中国文学 ● 牧角悦子

神話と詩——文学研究の方法論

中国女性史 ● 仙石知子

何のために女性を描くのか——劉向「列女伝」

中国思想 ● 田中正樹

中国の古典思想文献を読む——「論語」を読んでみよう

古典小説 ● 伊藤晋太郎

「三国志演義」を研究する

校勘学 ● 小方伴子

清代に於ける書物の伝承と校勘——校本及びその題跋を手掛かりとして

日本漢学 ● 町泉寿郎

日本漢学とその研究方法をめぐって

中国文献学 ● 王宝平

中国学研究の新動向——中国における「域外漢籍」研究について

書道 ● 高澤浩一

中国書道史の旅

書道 ● 福島一浩

墨跡・禅僧の書——宋時代・鎌倉時代から届いた心の痕

漢文訓読法入門 ● 市来津由彦

返り点を付ける

お役立ちサイト集

「文化の宝庫」を 学ぶために

中国の言語・文学・歴史・思想・芸術等、中国文化が育んできた諸成果を研究する「中国学」。

中国学は、長大な歴史的経験を経た先人達の膨大な知恵を効率よく吸収し、自己の思考の糧とすることができ、非常に優れた学問であり、また我々が未来に向けて行動する際に参照すべき「指針」や「教訓」の宝庫と言える。

本書では、古代から二十一世紀にいたる多様な中国文化及び日本に受容された中国文化「日本漢学」の研究方法について、具体例にもとづき丁寧に解説する。

「文字学(漢字)」、「中国文学(神話と詩)」、「中国女性史(列女伝)」、「中国古典テキスト(論語)」、「中国小説(三国志演義)」、「校勘学(国語)」、「日本漢学」、「域外漢籍」、「日・中国書道」、「中国古典読解(漢文訓読)」をテーマとした、中国学の「方法」を学ぶための11章。

書 名		部 数
入門 中国学の方法		
二松學舎大学文学部中国文学科[編]		
ご送付先ご住所（通信欄）		

定価1,760円(本体価格1,600円)

A5判並製カバー装・264頁
ISBN 978-4-585-30005-2 C1000
2022年4月刊行

部

中世神道入門

カミとホトケの織りなす世界

伊藤 聡
門屋 温
〔監修〕

新井大祐
鈴木英之
大東敬明
平沢卓也
〔編〕

ダイナミックな発展を遂げた

中世日本の神道がわかる、

初のガイドブック！

日本古来の信仰でありながらも、

時代とともにめまぐるしい変化を遂げてきた「神道」。

中世日本では、仏教と神道の融合現象——「神仏習合」が

極めて発展的な展開をみせ、両部神道・伊勢神道・吉田神道など、

さまざまな神道の流派の諸派が生まれた。

また、儀礼のありかた、

体系的に組み合わせられた空間・図像・言説などにより、

独自の世界観・世界像を築き、同時代の宗教のみならず

政治・文化にも多大な影響を与えてきた。

近年、急速に研究の進展する「中世神道」の見取り図を、

「神道の流派」「基本的な概念」「中世の神々」「神話モチーフ」

「神道をめぐる人々」「イメージ」「神道書」など

テーマごとに立項し、第一線で活躍する研究者が、

多数の図版とともにわかりやすく解説する決定版！

【目次】

カラー口絵

序言

1 総論

中世神道とは／神仏習合の諸相／中世神道
流派概説／神道伝授のかたち

2 中世の神々

古典神の変貌／広がる信仰／習合神の諸相
／鎌倉仏教の神

3 中世神話のモチーフ

4 中世神道の イメージとイコノロジー

5 中世神道をめぐる人々

6 中世神道書の世界

中世日本紀／両部神道／伊勢神道／山王神
道／吉田神道／その他

【附説】欧米言語による中世神道研究

【附録】中世神道研究のための文献リスト

あとがき

執筆者紹介

定価 四、一八〇円（税込）
本体 三、八〇〇円

A5判並製カバー装・

カラー口絵八頁＋本文三三九頁

二〇二二年四月刊行

ISBN978-4-585-31006-8 C1014

掲載図版
70点超！

【監修者プロフィール】

伊藤 聡（いとう・さとし）

茨城大学人文社会科学部教授。専門は日本思想史、神道論。
著書に『神道の中世——伊勢神宮・吉田神道・中世日本紀』
（中公選書、二〇二〇年）などがある。

門屋 温（かどや・あつし）

清泉女子大学非常勤講師。専門は日本宗教思想史。
論文に「神道をめぐる幻想の正体」「療法としての歴史
〈知〉」森話社、二〇二〇年）などがある。

書名	部数
中世神道入門 カミとホトケの織りなす世界 伊藤聡・門屋温〔監修〕 新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也〔編〕	部
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

鷹狩の日本史

福田千鶴・武井弘一 [編]

知られざるヒトとタカの関係史

飼い慣らした鷹を自在に操り、獲物を捕らえる狩猟、鷹狩。
五世紀の古墳時代から

江戸幕府瓦解の十九世紀後半に至るまで、
鷹狩は権力と深く結びつきながら

日本列島において連綿と続けられてきた。
そこには、日本の風土や社会のなかで

地域・時代・階層、あるいは狩猟の目的等にあわせて
独自に発展してきた固有の歴史が存在する。

日本史を貫く重要な要素でありながら、
等閑視されてきた鷹狩の歴史を紐解き、

新たな知の沃野を拓く刺激的な一冊。

編者プロフィール

福田千鶴 (ふくだ ちづる)

一九六一年生まれ。九州大学基幹教育院教授。鷹・鷹場・環境研究会代表。専門は日本近世史。著書に「幕藩制の秩序と御家騒動」(校倉書房、一九九九年)、「徳川綱吉」(山川出版社、二〇一〇年)、「近世武家社会の奥向構造」(吉川弘文館、二〇一八年)、「城割の作法」(吉川弘文館、二〇二〇年)などがある。

武井弘一 (たいけい こういち)

一九七一年生まれ。琉球大学国際地域創造学部准教授。鷹・鷹場・環境研究会副代表。専門は日本近世史。著書に「鉄砲を手放さなかった百姓たち」(朝日新聞出版、二〇一〇年)、「江戸日本の転換点」(中央出版、二〇一五年)、「茶と琉球人」(岩波書店、二〇一八年)などがある。



目次

序章 鷹狩の日本史◎福田千鶴

第1部 古代から近世までの通史的展開

- 第1章 古代日本の鷹狩◎森田喜久男
- 第2章 中世日本の鷹狩◎中澤克昭
- 第3章 近世日本の鷹狩◎武井弘一
- 【ラム1】鷹・馬・犬からみた生類憐みの令◎兼平賢治
- 【ラム2】山林原野の明治維新と御猟場◎江藤彰彦

第2部 鷹と人との関係史

- 第4章 鷹の種類と調教◎福田千鶴
- 【ラム3】琉球の鷹狩儀礼と生態系◎武井弘一
- 第5章 鷹狩をめぐる江戸時代のツルの「保護」と人の関わり◎久井貴世
- 第6章 琵琶湖の水鳥猟と鷹場◎東 幸代
- 【ラム4】鳥取藩「湖山鴨堀」と周辺環境◎来見田博基
- 第7章 越後国村上藩主松平直矩の鷹と鷹狩◎渡部浩二
- 第8章 大洲藩の狩——鷹鷹場と生業◎東 昇
- 第9章 尾張藩家臣の鷹場
- 【ラム5】「さだ六とシロ」の物語◎福田千鶴

第3部 日本列島における鷹の諸相

- 第10章 「御鷹」の献上・下賜◎越坂裕太
- 【ラム6】「御鷹」拝領と「御鷹」二而捉飼「鳥類の時献上」◎武鑑を糸口に◎藤實久美子
- 第11章 松前藩と鷹鳥屋敷知行◎榎森 進
- 【ラム7】將軍の鷹と馬◎兼平賢治
- 第12章 盛岡藩の鷹と奥州の捕獲◎中野渡一耕
- 【ラム8】参勤交代にみる鷹の役割◎来見田博基
- 第13章 南九州における鷹巢山について——米良山を中心に◎大賀郁夫

第4部 鷹狩文化を担った人々

- 第14章 鷹詞と有職故実◎大坪 舞
- 第15章 鷹狩の絵画——近世初期における鷹狩への眼差し◎水野裕史
- 第16章 銅鳥勝茂と鷹◎伊藤昭弘
- 第17章 鷹匠として生きる武士たち◎堀田幸義
- 【ラム9】江戸における鷹匠の交流◎岩淵令治
- 第18章 鷹書と出版文化◎藤實久美子
- 【ラム10】越境する鷹狩文化——中央ユーラシアを駆ける鷹狩と鷹匠の世界◎相馬拓也



書 名	部 数
鷹狩の日本史 福田千鶴・武井弘一 [編]	本体3,800円(+税) A5判・並製・カバー装・368頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-22297-2 C1021
ご送付先ご住所 (通信欄)	

中国道教美術史

漢魏晉南北朝篇

定価 38,500 円
本体価格 35,000 円

B5判上製カバー装・552頁
ISBN978-4-585-37001-7 C3071
2022年2月刊行

李松^[著]／土屋昌明・齋藤龍一^[監訳]／廣瀬直記・熊坂聡美・因幡聡美^[訳]

道教の美術とはなにか

道教の生成プロセスにまでさかのぼり、春秋戦国時代から漢そして三国時代にいたる、老子の神格化と視覚化の関係を「先道教美術」と位置付け、多くの新出資料を提示し徹底的に検討する。さらに南北朝時代北魏を「道教美術の成立」と定義し、北魏から隋時代にいたる膨大な道教像を時代ごとに整理し網羅的に集成、最新の研究に裏付けされた詳細な解説を付す。文献を中心とした道教研究とは一線を画し、現地調査による道教空間への接近、帛書・銅鏡・画像石・書法・絵画・彫刻など、道教美術研究の第一人者による「モノ」を起点とした総合的な考察の成果を示す。道教美術の全貌をオールカラーによる豊富な図版と共に紹介する大著、待望の邦訳。



【目次】

前言 李 松
訳者説明

第一章 先道教美術

はじめに 「先道教美術」について
第一節 楚墓の文物から見た人と鬼神が共存する世界
第二節 漢晋銅鏡：羽人から諸神の出現へ
第三節 漢代の老子図像
第四節 洛陽から陝北へ：地下にあるカラーの天界
春秋戦国～漢代道教美術年表

第二章 引用と相互作用： 南北朝時代から隋時代の道教石刻造像

はじめに 未完成の道教図像に関する設計書
——顧愷之『画雲台山記』
第一節 北魏：長安から羅県へ
第二節 西魏「大統」時代
第三節 北周・北齊：限りある発展
第四節 隋代：天尊の出現
三国～隋代道教美術年表

訳者あとがき
著訳者紹介



【著者紹介】

李松（ペンネーム：李湊、りしょう、Li Song）
北京大学芸術学院教授、美術学博士。専門は中国宗教美術史。
著書に『神聖図像 李湊中国美術史文集』（人民出版社、2016年）、『陝西仏教芸術』（文物出版社、2008年）、『遼古至先秦絵画史』（人民美術出版社、2004年）、『長安芸術と宗教文明』（中華書局、2002年）など。編著に『道教美術新論—第一屆道教美術史国際研討会論文集』（山東美術出版社、2008年）などがある。この分野で中国を代表する研究者である。

【訳者紹介】

土屋昌明（つちや・まさあき）
専修大学国際コミュニケーション学部教授。専門は中国文学・思想史。
編著書に『道教の聖地と地方神』（ヴァンサン・ゴースールとの共編、東方書店、2016年）、論文に「女性道士焦真静の巡礼」（日本道教学会『東方宗教』第132号、2020年8月）、「黄泉国と道教の洞天思想」（日本古事記学会『古事記年報』58、2016年3月）などがある。

齋藤龍一（さいとう・りゅういち）
大阪市立美術館主任学芸員。専門は中国仏教・道教美術史。
編著書に『展覧会図録「道教の美術」』（読売新聞社、2009年）、論文に「中国南北朝時代における維摩像の展開と地域性—道教像との図像的関連に注目して—」（『仏教芸術』第6号、2021年3月）、「唐時代における石造道教像の研究—老君・天尊像を中心に—」（『國華』第1485号、2019年7月）などがある。

廣瀬直記（ひろせ・なおき）
専修大学経済学部非常勤講師。専門は中国宗教史・思想史。

熊坂聡美（くまさか・さとみ）
成城大学民俗学研究所研究員・成城大学文芸学部非常勤講師。
専門は中国仏教美術史。

因幡聡美（いなば・さとみ）
専門は中国仏教美術史。



書 名	部 数
中国道教美術史 漢魏晉南北朝篇 李松 ^[著] ／土屋昌明・齋藤龍一 ^[監訳] 廣瀬直記・熊坂聡美・因幡聡美 ^[訳]	定価 38,500 円（本体価格 35,000 円） B5判上製カバー装・552頁 2022年2月刊行 ISBN978-4-585-37001-7 C3071
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

福州版一切経調査研究会……………編

宋版一切経（福州版）調査提要

本源寺蔵の調査を通して

東アジアの仏教伝播、そして、

木版印刷の文化伝播を考える上で、各地に襲蔵される「宋版一切経」は避けては通ることのできない重要な文化遺産である。

近年、書誌学的・目録学的研究の進展を見せる

「宋版一切経」の中でも「福州版」について、実際の調査の中から得られた、特徴的な装訂・版式、

補刻の様相や印記等に関する知見を提示。

さらには、関連論文、附録を収載した、

初めての「福州版一切経」調査ハンドブック。

目次

はじめに

大蔵経調査の必要性

一 印刷漢文大蔵経の簡紹・説明と福州版大蔵経の問題点

二 福州版大蔵経——『東禪寺版（一切経）』『開元寺版（一切経）』

三 調査——その現場と調査など

四 書物としての宋版一切経——書物各部の名称・版式としての名称など

A 福州版の装訂について

B 調査項目の解説と記入の実例・注意点

① 千字文番号と函取納の順序——調査余白の利用

② 調査年月日と調査者名の記入

③ 「帙」表紙——⑤ 寸法と併せて

④ 「外題」

⑤ 存「完存・欠（前・途中・後）断簡・殆ど損傷」

⑥ 刊・写

⑦ 見返し……共紙・その他

⑧ 印記——巻首尾の題記・版心などの施財刊語など

⑨ 内題——

⑩ 版心——附、印造記・板数・面数・界高・版心（柱）位置を併せて

⑪ 尾題——刊行（場）列位・（尾題記）

⑫ 印面——

⑬ 面数と厚さ——五面一紙混入のことなど——

⑭ 題記・入れ木（埋め木）

⑮ 混合帖など

論考

宋版大蔵経と女性刻工………野沢佳美

書陵部蔵福州版一切経の本文欠落巻について………中村一紀

宋版一切経補刻葉に見える

「下州千葉寺了行」の周辺………牧野和夫

附録

題記一覧——本源寺蔵を軸に——

主要参考文献一覧（福州版一切経関連に限る）

用語索引

あとがき………牧野和夫

執筆者一覧

【福州版一切経調査研究会（五十音順）】

上杉智英 京都国立博物館研究員

落合俊典 国際仏教学大学院大学教授

高橋悠介 慶應義塾大学附属研究所所道文庫准教授

中村一紀 三の丸尚蔵館調査補佐員

野沢佳美 立正大学文学部教授

前島信也 国際仏教学大学院大学日本古写経研究所研究員

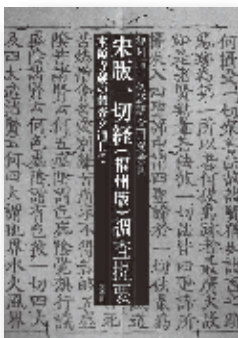
牧野和夫 実践女子大学名誉教授、

国際仏教学大学院大学日本古写経研究所特別研究員

南 宏信 佛教大学講師

矢口郁子 開成中学・高等学校教諭

（故）渡辺信和 元同朋大学仏教文化研究所研究室長



定価 **7,150**円・（本体価格6,500円）
A5判並製・304頁
ISBN 978-4-585-31010-5 C3015
2022年3月刊行

書名	部数
宋版一切経(福州版)調査提要 本源寺蔵の調査を通して 福州版一切経調査研究会 [編]	定価 7,150 円(本体価格6,500円) A5判並製・304頁 ISBN 978-4-585-31010-5 C3015 2022年3月刊行
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

中野幸一〈著〉

物語文学の諸相と展開

平安文学研究の大家による
提言や試論を集めた必読の一書。

『源氏物語』『うつほ物語』『堤中納言物語』などの
物語史を検証。

緻密な文章表現の分析により、
物語世界に新たな解釈を提示する。

『平家公達草紙』『しづくににる物語』『下燃物語』
『すもり物語』『しら露物語』など

新出の物語文学資料に関する論考も充実。

〈著者プロフィール〉

中野幸一（なかの・こういち）

早稲田大学名誉教授。文学博士。

専攻は平安文学。二〇一一年瑞宝中綬章受章。

主な編著書に『物語文学論攷』（教育出版センター、一九七一年）、『う

つほ物語の研究』（武蔵野書院、一九八一年）、『奈良絵本絵巻集』全12

巻別巻3巻（早稲田大学出版部、一九八七～一九八九年）、『常用源氏

物語要覧』（武蔵野書院、一九九五年）、『源氏物語古註釈叢刊』全十巻（武

蔵野書院、一九七八～二〇一〇年）、『フルカラー 見る・知る・読む

源氏物語』（勉誠出版、二〇一三年）、『ちりめん本影印集成 日本昔

噺輯篇』（共編、勉誠出版、二〇一四年）、『正訳 源氏物語 本文対照』

全十冊（勉誠出版、二〇一五～二〇一七年）、『正訳 紫式部日記 本文対照』

（勉誠出版、二〇一八年）などがある。

〈もくじ〉
はじめに

古代物語の系譜と類別——物語史の検証——

前期物語の性格——物語史の検証——

長編物語の成立をめぐる（講演）

古物語の合成発展——短編から長編へ——

『うつほ物語』の成立年代

——史実・歳事・風俗上からの考察——

『うつほ物語』の叙述の方法——長編物語への試み——

『うつほ物語』の構造

『源氏物語』の一回性人物——その消滅型と再生型——

『源氏物語』の「かざり」について

『源氏物語』の表現方法——短文表現と再叙表現——

『源氏物語』の遡及表現

『源氏物語』の依存表現

『源氏物語』における強調・感動・傍観の草子地

『源氏物語』における「夕ばえ」の解釈について

猪苗代兼載『源氏一部抜書』の資料的価値

『物語のいではじめのおや』考

——『竹取物語』の文学史上の地位——

『源氏取り』の物語の方法

草子地攷

『紫式部日記』の時間的構造

——その回想と執筆時期について——

『堤中納言物語』の形態とその編纂意図

『堤中納言物語』をめぐる試論

——はたして短編物語集か——

六条斎院祿子内親王家の「物語合」について

——その発見時の成果の再吟味——

書陵部蔵の佚名物語一巻について

——『平家公達草紙』の残欠か——

『平家公達草紙』をめぐる

『しづくににる物語』考

『下燃物語』の残欠絵巻について

——後期物語の新出資料——

『すもり物語』 覚書

『しら露物語』 考

定価 1,311,000円（税込）

本体 1,100,000円

A5判上製カバー装・五四四頁

二〇二一年四月刊行

ISBN978-4-585-39000-8 C3095

書名

部数

物語文学の諸相と展開

中野幸一〔著〕

定価 13,200円（税込）/ 本体12,000円
A5判上製カバー装・544頁
2021年4月刊行
ISBN978-4-585-39000-8 C3095

部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

宗教芸能としての能楽

アジア遊学
265

高橋悠介[編]

寺社文化圏や唱導との関わりの中から、多くの作品が生み出されてきた能楽。

能作品には、中世の寺社のありようや信仰、学問、宗教文化が反映されているが、その宗教的な背景は、未だ充分に明らかにされていない部分が多い。

中世日本の宗教的な知は、どのように能楽に流れ込み、作品世界を形成していったのか。

能作品や能楽論の中の

仏教や神祇に関わる面を掘り下げること、

宗教芸能としての能楽について考えるとともに、

能を通して、室町の宗教文化の一端を明らかにする。

【編者紹介】

高橋悠介（たかはし ゆうすけ）

慶應義塾大学附属研究所道文庫准教授。専門は日本文学・寺院資料研究。主な著書、論文に『禅竹能楽論の世界』（慶應義塾大学出版会、二〇一四年）、「諸社口決」と密教的社参作法の展開」『中世に架ける橋』森話社、二〇二〇年）、「身体生成をめぐる思想と中世仏教——五蔵観・魂魄・胎内説」（『日本宗教史3 宗教の融合と分離・衝突』吉川弘文館、二〇二〇年）などがある。

【目次】

序言 ● 高橋悠介

1 能をめぐる宗教的環境／能に描かれる宗教空間

除魔・結界の呪法と芸能——「翁」の成立環境と、その近隣 ● 大東敬明
春日若宮と能楽

——若宮臨時祭、法楽能、祈雨立願能をめぐる ● 天野文雄

謡曲《絵馬》管見——長祿三年伊勢斎宮の旅 ● 芳澤元

能《巻絹》に描かれた熊野の神仏 ● 高橋悠介

2 能作品と仏教説話／唱導／要句

韋駄天説話の源流と変容

——唐宋代の諸伝承と律学受講の場を視点に ● 西谷功

能《安字》の説話的考察——文字を買う話と男装の論理 ● 岩崎雅彦

能《海士》の構想 ● 中野顕正

能《重衡》の表現と思想

——「寒林に骨を打つ霊鬼は」の句をめぐる ● 猪瀬千尋

能における宗教関係語句一斑

——《放下僧・春日龍神・楊貴妃・草子洗・三輪》について ● 落合博志

「コラム」狂人走れば不狂人も走る」攷——《関寺小町》試注 ● 佐藤嘉惟

3 能楽論・能作品と教説の間

世阿弥と如来蔵——「離見の見」の内包するもの ● 小川豊生

能《芭蕉》の構想と草木成仏説 ● 高尾祐太

《求塚》の墮地獄と論理 ● 中嶋謙昌

「コラム」術婆伽説話の生成と展開

——恋は病か、破戒か、神を招くか ● 平間尚子

4 謡曲注釈学の黎明期

「コラム」『江口本聞書』——初期の謡曲注釈書とその伝来 ● 高橋悠介
吉田兼右・兼見の謡曲註釈と『謡抄』

——『謡抄』前史の謡曲註釈と吉田神道 ● 野上潤一

書 名	部 数
宗教芸能としての能楽 高橋悠介 [編]	部
ご注文先ご住所（通信欄）	

定価3,300円(税込)・本体3,000円
A5判並製カバー装・280頁
2022年1月刊行
ISBN978-4-585-32511-6 C1314

ことば・ほとけ・凶像の

交響 法会・儀礼とアーカイヴ

近本謙介【編】

【目次】

カラー口絵

緒言◎近本謙介

第一部 ことばの響き

中世日本の唱導におけるほとけとことば——説経師の宗教テキスト・アーカイヴス◎阿部泰郎
信貴山と中世聖徳太子伝◎猪瀬千尋

河内源氏の供養と鎌倉幕府の成立——安居院流唱導の表白を題材として◎山野龍太郎
アーカイヴとしての『扶桑略記』◎三好俊徳
蒙書『上大人』・『土土由山水』と禅師語録における運用について◎任 占鵬
『維摩経』をめぐる法会・文芸・芸能——『春日権現験記絵』を視座として◎近本謙介

第二部 ほとけの響き

浄土寺浄土堂の造形と思想◎富島義幸
宣陽門院の宗教空間におけるほとけとことば

——東寺西院御影堂の中世的発展と貞慶の『舍利講式』をめぐる◎阿部美香
儀礼空間に託された信仰のかたち——高野山大伝法院本堂を中心として◎郭 佳寧
コラム・『華嚴経』を見ること、聞くこと、飲み込むこと

——論義における中世僧侶の教理意識とその周辺◎野呂 靖
北条時頼の臨終儀礼再考——俊仍・泉涌寺僧請来の宋代仏教儀礼・作法の視点から◎西谷 功
通受の背景◎大谷由香

第三部 凶像の響き

古代・中世仏教儀礼における造形の役割——行儀・凶像・テキスト◎泉 武夫
新出の列女伝図・列士伝図について——楚平伯鳳図、聶政図の断片◎黒田 彰
十王信仰初期の変容と唱導◎荒見泰史

神奈川県小田原市総世寺所蔵の十王二使者図について◎橋本遼太
立川流『阿字観』とその伝本

——仁和寺蔵『五智蔵秘抄』の後半部を伝える聖教をめぐる◎海野圭介
文観房弘真が織りなしたテキストの地平

——『御遺告七箇大事』と『三尊合行法』◎ラポー・ガエタン
称名寺素尊本神祇書一結と神道灌頂◎高橋悠介

第四部 アーカイヴとの共鳴

鎮護国家の仏教と列島の景観——仏法・王法相依の儀礼と地域統治◎松尾恒一
民俗社会の信仰と知識——奥三河宗教文献研究の現在◎松山由布子
コラム・『男ノ心』は何と同じか——九華山地蔵寺所蔵文献から◎山崎 淳
史料紹介・壬辰請援第一陣の記録——柳夢鼎の燕行録『壬辰赴京日記』◎程 永超

あとがき◎近本謙介

人びとの祈りのかたちを表す法会や儀礼は、
ことば・ほとけ・凶像が統合的に機能する
空間のうちに執行されてきた。
唱導や文芸のことば、仏像彫刻や
それを荘厳する寺院空間、
凶像や絵画、さらには宗教空間で執り行われる
法会・儀礼の次第や所作、
それらを支える教理・教学——
諸種の要素の響き合いにより営まれた
法会・儀礼の実際を、寺院に伝持されてきた
アーカイヴを紐解くことで明らかにする。

領域横断的・複合的な議論と方法論を示す

四部二十三編の論考が奏でる法会・儀礼学の最新機軸。

定価 二二、一〇〇円（税込）

（本体 二一、〇〇〇円）

B5判上製カバー装

カラー口絵一六頁＋本文五二八頁

二〇二二年三月刊行

ISBN978-4-585-31009-9 C3015

【編者紹介】

近本謙介（ちかもと・けんすけ）一九六四年生まれ。名古屋大学文学
研究科教授。専門は中世宗教文芸。著書に『春日権現験記絵注』神戸
説話研究会編、和泉書院、二〇〇五年・二〇一四年改訂重版、『天野山金
剛寺善本叢刊』第一期・第二巻『因縁教化』（共編著、勉誠出版、二〇一七
年）、『玄奘三蔵 新たなる玄奘像をもとめて』（共編著、勉誠出版、二〇二
一年）、『宗教遺産学の創成』（編著、勉誠出版、二〇二二年）などがある。

書 名	部 数
ことば・ほとけ・凶像の交響 法会・儀礼とアーカイヴ 近本謙介【編】	部
ご注文先ご住所（通信欄）	

定価 13,200円（税込）・本体12,000円
B5判・上製カバー装・カラー口絵16頁・本文528頁
2022年3月刊行
ISBN978-4-585-31009-9 C3015

木俣元一／近本謙介……………編

宗教遺産
テキスト学の創成

「祈り」という人類の普遍的・根源的営みのなかで構築された宗教は、それを信仰し担う人々により、多種多様な形をもって大切に守られ、伝えられてきた。

また、一方で、人間と宇宙の根源的な在り方を規定する拠り所であるが故に、

世界認識における解釈の対立を生じ、時には宗教間の軋轢や破壊を呼び起こすきっかけともなった。

「宗教遺産テキスト学」とは、

人類によるあらゆる宗教所産を、多様な「記号」によって織りなされた「テキスト」とみなすことで、

その構造と機能を統合的に解明し、人類知として再定義することを目的とし、

「コト」と「モノ」を一体化する新たな学術領域である。

宗教遺産を人類的な営みとして横断的かつ俯瞰的に捉え、

ひと・モノ・知の往来により生成・伝播・交流・集積を繰り返すその動態を、

精緻なアーカイヴ化により知のプラットフォームを構築することで、多様性と多声性のなかに位置づける。

文理を超えた三篇七章、四十の論考により示される、人類の過去・現在・未来をつなぐ新視点。



【執筆者一覧】

第一篇…近本謙介・宮治昭・上枝いづみ・影山悦子・檜山智美・濱田瑞美・森雅秀・

大谷由香・荒見泰史・程永超・横内裕人・三好俊徳・富島義幸・本井牧子・

児島大輔・猪瀬千尋・山本聡美・鴈野佳世子

第二篇…木俣元一・秋山聰・松田陽・高橋沙奈美・栗田秀法・周藤芳幸・水野千依・

松井裕美・石原美奈子・伊東未来・出口顯・佐々木重洋

第三篇…梶原義実・小田寛貴・河江肖刺・遠藤守・井上隼多・野原裕太・阿部泰郎・

三谷真澄・野呂靖・小池淳一・楠淳澄

【目次】

カラー口絵
宗教遺産テキスト学序説

第一篇 生成・動態の解明
——源流と伝播のメカニズム

第二部 交流と集積の実態解明
——仏教文獻・図像の源流および諸地域への伝播の解明

——東アジアにおける祈りの記録と記憶

第三部 日本における宗教美術の形成・伝来・復元

第二篇 多様性・多声性の解明

第四部 「文化遺産」と「宗教」の歴史と理論
——「宗教遺産テキスト学」の基盤構築に向けて

第五部 宗教実践の多様性と遺産化をめぐる諸問題

第三篇 文理融合による新展開と未来への発信

第六部 文理融合型研究の新展開構築

第七部 宗教遺産先端アーカイヴ構築と発信

まとめと展望
あとがき／執筆者一覧

定価 **16,500**円・(本体価格15,000円)
B5 判上製・カラー口絵8頁＋本文720頁
ISBN 978-4-585-31008-2 C3014
2022年3月刊行

書名	部数
宗教遺産テキスト学の創成 木俣元一／近本謙介 [編]	部
ご注文先ご住所・氏名 (通信欄)	

玄奘三蔵



新たな玄奘像をもとめて

佐久間秀範・近本謙介・本井牧子【編】

七世紀、遠くインドへ旅に赴き、多数の仏典・仏像を将来、
仏典の漢訳により東アジアにおける仏教の基盤を作り上げた仏者、
玄奘三蔵。

その求法の道行はいかなるものであったのか。

そして、その思想はどのように形成され、伝えられていったのか。

言説・絵画作品などで玄奘はどのように語られ、描かれているのか。

実像と伝承上の姿を対照することで浮かび上がる、

新たな玄奘像とはどのようなものなのか。

仏教学・文学・美術など多角的な視点から玄奘の、

そして、玄奘にまつわる思想・言説・図像を読み解く画期的論集。

【編者紹介】

佐久間秀範(さくま・ひでのり)

筑波大学名誉教授。専門はインド瑜伽行唯識思想。著書『Die Āśayapariṣit-Theorie in der Yogācārahūti, Teil I, II, Alt- und Neu-Indische Studien, Bd. 40, herausgegeben vom Institut für Kultur und Geschichte Indiens und Tibets an der Universität Hamburg, Stuttgart: Franz Steiner Verlag, 1990, 10, Teil I: 178 Seiten, Teil II: 243 Seitenなどがある。

近本謙介(ちかもと・けんすけ)

名古屋大学文学研究科教授。専門は中世宗教文芸。主な編著書に『天野山金剛寺善本叢刊』第一期・第二巻『因縁・教化』(共編著、勉誠出版、二〇一七年)、『春日権現験記絵注』(神戸説話研究会編、和泉書院、二〇〇五年・二〇一四年改訂重版)などがある。

本井牧子(もと・まきこ)

京都府立大学文学部教授。専門は日本文学(宗教文芸)。著書に『金蔵論本文と研究』(宮井里佳共編著、臨川書店、二〇一一年)、論文に『釈迦堂縁起』とその結構』(『國語國文』86-5, 二〇一七年五月)などがある。

【目次】

序言●佐久間秀範・近本謙介

第一部 玄奘の足跡と思想

- 第一章 『西域記』慈恩伝読後●桑山正進
- 第二章 旅する玄奘の思想的変遷●佐久間秀範
- 第三章 玄奘の求法と伝法——唯識思想を中心に●吉村誠
- 第四章 玄奘系唯識宗の異派——円測思想考●橘川智昭
- 第五章 玄奘が学んだ仏教知識論(因明)●師茂樹
- 第六章 玄奘門弟道昭和尚に関する
文献上の一考察●ステフェン・デル
- 第七章 日本における玄奘の門下生に見る修行道
——道昭と行基●養輪顕量

第二部 玄奘をめぐる言説・図像

- 第一章 玄奘訳『般若心経』の特徴
——中世の神祇信仰を糸口として●阿部龍一
- 第二章 玄奘の仏像請来の事績二件●肥田路美
- 第三章 敦煌文献から見た玄奘三蔵●荒見泰史
- 第四章 日本密教文献にみる『深沙神王記』論考●李銘敬
- 第五章 慈恩大師基をめぐる唱導
——東大寺図書館蔵『如意鈔』を中心に●本井牧子
- 第六章 『玄奘三蔵絵』と中世南都の仏教世界観●谷口耕生
- 第七章 『玄奘三蔵絵』の成立
——詞書筆者資料を基点として●落合博志
- 第八章 聖なる絵巻をつくる
——『玄奘三蔵絵』における絵と詞
●レイチェル・サンダーズ
- 第九章 『玄奘三蔵絵』の構造と構想
——興福寺における宗の論理と
『春日権現験記絵』との相関●近本謙介

編集後記●本井牧子

定価 二二,二〇〇円(税込)

(本体二二,〇〇〇円)

A5判上製カバー装・五二二頁

二〇二二年十二月刊行

ISBN978-4-585-31005-1 C3015

書名	部数
玄奘三蔵 新たな玄奘像をもとめて 佐久間秀範・近本謙介・本井牧子【編】	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

定価 13,200円(税込)・本体12,000円

A5判・上製カバー装・512頁

2021年12月刊行

ISBN978-4-585-31005-1 C3015

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025